

アジアの家族と外国人ケア労働者

趣旨

現在、どちらかという「安定的」と考えられてきた家族のあり方が大きく変わりつつある。それは、急速な少子・高齢化と家族観の変化を経験している東・東南アジアにおいて特に顕著である。そのことは同時に子どもの養育ケアや老親の介護ケアにも大きな影響を及ぼしている。

ただし、国ごとにその影響と対応は一樣ではなく多様なケアのあり方が実現しているのが現実である。ケア労働者の国際的移動がこのような家族ケアのあり方の変化と軌を一にして活発化している。

他方、日本国内に目を転ずれば、やや異なった光景が現れる。介護ケア労働をめぐって見られるのは、合法的なものとしては、国際結婚によるケア労働への従事以外に、研修制度によるもの、EPA 協定によるフィリピン、インドネシア介護士の就労問題に限定される。

今回のセミナーでは「アジアの家族と外国人ケア労働者」をめぐる様々な問題を検討し、また、「日本における外国人（アジア）ケア労働者」をめぐる課題と今後の展望について議論します。多数の方のご参加のほどお願い申し上げます。

時間 2010年11月13日(土) 13:00～15:30

場所 同志社大学溪水館1階会議室 (新町キャンパス)

スケジュール

聴講無料・事前
申し込み不要

13:00～13:10 司会者挨拶

13:10～13:40 落合恵美子（京大教授、親密圏 GCOE 代表者）

「アジアのケアレジーム：家族主義の多様性」

13:40～14:10 安里和晃（京大准教授）

「アジアにおけるケアの「家族化」政策と人の国際移動」

14:10～14:40 永藤栄一（介護老人保健施設 エスペラス井高野元事務長）

「福祉施設における外国人ケア労働者」

14:40～14:50 休憩

14:50～15:30 ディスカッション

お問い合わせ：同志社大学社会福祉教育・研究支援センター事務局

Tel:075-251-4902

E-mail:derc-sw@mail.doshisha.ac.jp